

落語でふるさと恩返し公演

八代まちなか寄席



▲長年培った話芸が冴える

春雨や雷太から3月に改名した両親が八代市出身の落語家・桂真三さんが、6月19日にやつしろハーモニーホールで、収益金の一部を熊本地震の義援金にする「ふるさと恩返し公演」を行い、満員の観客が落語を楽しみました。

昨年12月には、連歌の大家で八代出身の西山宗因ゆかりの創作落語を披露するなど、非公認の八代親善大使を自任する桂さん。今回は、笑福亭鶴光師匠らをゲストに、楽屋の符丁などの専門用語や踊りも披露し喝采を浴びました。高島町の寺田ヒロ子さんは「毎回ですから、4回目になります。抽選でサインをもらったこともあります」と今回も大満足でした。

八代亜紀さんの復興支援

にほんのうた熊本キャラバン



▲ふるさと復興のために熱唱する八代亜紀さん

熊本地震を受けて、お年寄りから子どもまで幅広い世代の人たちに楽しく過ごしてもらうために、観て・聴いて・歌うイベント「にほんのうた熊本キャラバン」が6月18日に厚生会館で開催され、約800人が集まりました。

唱歌・童謡をモチーフにしたショートフィルム「にほんのうたフィルム」の上映、八代亜紀さんやビュティフルハミングバードさんのミニコンサートがあり、最後に開場の全員で「故郷」を合唱しました。八代さんは「私も頑張ります。一緒に頑張りましょう」とエールを送りました。

終了後、日奈久温泉を慰労訪問し地域の皆さんから大歓迎を受けました。

夏を迎える準備は万全

茅の輪くぐりで除災招福



▲茅の輪をくぐる参拝者

6月30日、豊原上町の遙拝神社で茅の輪くぐりの神事が行われ、人だけではなく車用の茅の輪も用意され大勢の参拝者で賑わいました。

茅の輪くぐりとは、盛夏を前に疫病退散、除災招福を祈る祭りで、半年間の間に知らず知らず犯した罪を茅の輪をくぐることによって祓いのける神事で、毎年、各神社で行われています。

ペットと一緒に茅の輪をくぐった横手新町の吉永ますみさんは、「ペットとお祓いができて、ペット用のお守りもあるのがとても良かったです」と話しました。

この日は、塩屋八幡宮などでも茅の輪くぐりが行われました。

音楽の力で復興支援

熊本地震復興チャリティコンサート



▲おてもやんや演歌を演奏した秀岳館高校吹奏楽部

6月26日、「熊本地震復興チャリティコンサート」が厚生会館で行われ、市内高校生やダンスクラブなどが出し物を披露しました。

これは、吹奏楽や音楽、ダンスのイベントを行うことで募金を募り、熊本地震で特に被害の大きかった中学校や高校の吹奏楽部へ楽器や譜面を寄附することを目的に開催されました。

主催者あいさつ後に、八代妙見祭保存振興会が「がめさんがやってきた!! プロジェクト」で、亀蛇のクイズを交えながらダンスを披露すると、会場にいた子どもたちが音楽に合わせて身振り手振りをする姿を見ることができました。

みんなで泊まろう 旧宮地東小学校オープニングセレモニー



▲装いも新たになった旧宮地東小学校の内部

平成26年度に廃校となった宮地東小学校が、集団宿泊施設として新たに生まれ変わりました。これは、民間企業のビブブルームが、本市より廃校跡地を借り受け、宿泊施設としての機能を持たせるための改修工事を行い、団体専用の宿泊施設「みんなで泊まれる小学校」として運営するものです。

地震の影響で延期となっていたオープニングセレモニーが、7月3日に行われ、地元関係者など約70人が参加し祝福しました。

同社の物袋栄一代表取締役は「地域との交流を大切にし地元産食材を使った料理が目玉。会社研修などに利用してください」とあいさつしました。

100歳おめでとうございます



松村マサノさん
(坂本町鶴喰)
大正5年7月11日生

マサノさんの実家が農家で、若い頃は野菜の行商をしていました。

スポーツが好きで、80代の頃は老人会でゲートボールチームの監督兼選手として試合で活躍していたそうです。

長寿の秘訣は「よく食べて運動することと家族がよくしてくれること」です。



田添芳子さん
(福正元町)
大正5年6月19日生

4人きょうだいの長女として天草で生まれ、若い頃は小学校の教師をしていた芳子さん。

生け花や習字、茶道が得意で、教室を開いて、近所の奥さんや学生さんらに教えていたそうです。

長寿の秘訣は「自然に生きて、健康でいること」です。

復興のシンボルに 熊本地震後 初のクルーズ客船寄港



▲全長348m、総トン数約16.8万トンの巨大船

7月7日、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社が運航するアジア最大級のクルーズ客船「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」が、約20mの「がんばれ熊本!!」の横断幕を掲げて、八代港へ入港しました。中国上海からの乗船客約4100人は、下船後、ツアーバス約100台に分乗。今回は、地震の影響で、ツアーの大半に八代宮散策などの観光地巡りも盛り込まれ、多くの観光客で八代市内は賑わいました。

「地震後、初のクルーズ客船が八代港へ寄港したことは、県内の観光復興への大きな弾みとして、夢と希望を与えます」と中村博生市長らは歓迎しました。

見て、触れて、感じて 八代妙見祭「出し物体験教室」



▲止まっているも的に当てるのは難しい流鏝馬

7月3日、鏡町の文政小学校で妙見祭出し物体験教室が開催されました。

この体験教室は、妙見祭の出し物に触れ合う機会を設けることで、将来の妙見祭の担い手育成を図ることを目的としています。

この日は、獅子舞、木馬、笠鉦、流鏝馬、亀蛇、飾馬の出し物が集まり、参加者は、それぞれの出し物を見て、触れて、妙見祭の歴史と伝統を感じました。

兄弟で参加した鏡小1年の村田政人くんも鏡保育園年中の卓也くんは、「初めて木馬に乗ったけど楽しかった。パパにお祭りにも連れて行って欲しい」と話しました。



八代のお土産がこの店に勢ぞろい 「きびっと STORE」 オープニングセレモニー



▲八代妙見祭グッズなどの土産品が並ぶ店内

八代妙見祭の和タオル・バツジやくまモングッズなどの土産品が並ぶ「きびっとSTORE」がイオン八代店内に開店し、7月8日にオープニングセレモニーが行われました。

約30平方メートルの店舗は、官民一体で観光開発を進めるために設立された「DMOやつしろ」が運営します。セレモニーでは、「八代の土産物が揃う店ができました。幅広い情報発信で八代の発展につながる起爆剤にした」との期待を込めて中村博生市長が開店を祝いました。また、「いきびつと観光大使」に委嘱された田辺湊さんらパール保育園の園児たちが観光情報パンフレットなどを配りました。

台湾の子どもたちが日本文化を体験 臺北市私立復興實驗高級中學が国際交流



▲初めての着物で茶菓子をいただく

7月7日、台北市^{台北}にあつて幼稚園から高校までの一貫教育を行っている私立復興實驗高級中學から、小中学生78人とPTA56人、学校関係者7人が、八代白百合学園高校を訪れ、授業体験や日本文化体験、両校の吹奏楽部によるジョイントコンサートでの音楽交流をしました。

日本文化体験では、茶道や着付、箏曲を通じて国際交流を深めました。初来日の同高級中学2年生の許惟翔くんは「抹茶は初体験ですが美味しかったです。ウーロン茶より好きかもしれません」と茶道が気に入った様子でした。また、義援金も贈られ、被災した生徒への奨学金などに活用されます。

日本女子プロ野球リーグ シンデレラシリーズ熊本八代大会開催



▲女子プロ野球選手から直接指導を受ける子ども

「JAやつしろ」と「日本女子プロ野球リーグ」が、熊本地震の復興支援と八代地域の活性化を目的に7月9・10日、県営八代野球場で本市初となる公式戦「シンデレラシリーズ」を開催しました。

試合前に行われた野球教室では、女子プロ野球選手が、直接子どもたちに優しく指導しました。八代四中女子ソフトボール部の樋口花楓^{かほ}さんは「教えてもらった練習方法を今後の練習に活用していきたい」と語りました。

プロ選手の華麗で白熱したプレーから、観客らは元気をもらいました。

なお、10日の試合は雨天のため中止となりました。

在宅医療や在宅看護を考えました 地域包括ケア推進住民講演会



▲本人・家族の選択と心構えが地域で看取る根底にあります

7月9日、やつしろハーモニーホールで「地域包括ケア推進住民講演会」が行われ、医療や介護に関心の高い300人が集まりました。

演題は「看取りを通して見えてきたもの」。にしくまもと病院の林茂院長が在宅介護の体験談などを交えて問題提起を行いました。

団塊の世代が75歳以上になる超高齢化社会「2025年問題」への対応策として、国は在宅医療を進めています。「在宅で生活し、在宅で療養し、在宅で一生を終える」覚悟を、私たちは求められています。住み慣れた地域での看取りの質をこれから高めていきましょう。